



## 岩手 大槌町

# 基幹の水産業 養殖に活路

岩手県大槌町は、東日本大震災で甚大な被害に遭った。大津波が襲来した後、町中心部の町方地区で大規模な火災が発生。リアス海岸の背後に広がる山に火の付いたがれきが流れ着き、燃え広がった「津波火災」とされる。全町民に占める犠牲者の割合は、関連死を含めて県内最悪の8.0%に上った。

町が役場庁舎前に設置した災害対策本部を津波が襲い、当時の町長を含む職員多数が犠牲になった。震災遺構として庁舎を保存するかどうか議論されたが、平野公三町長は解体方針を堅持し、2019年3月に取り壊した。

土地区画整理事業は町方、安渡、赤浜、吉里吉里の4地区で実施。計3400の計画人口に対し、今年1月29日時点で居住者と住宅建設の意向を持つ人を合わせた想定人口は1760にとどまる。区画整理事業地52.6%の利用率は8割を超えるが、民間宅地区画に限ると5割を切る。災害公営住宅は県と町が計876戸を整備した。

町内10地域の復興協議会が、住民主体の復興まちづくりの核となった。地域別の復興計画を町に提言したほか、コミュニティー再生や地域資源の活用、震災の慰霊などにも取り組み、今年3月で活動を終えた。

基幹産業は水産業。ワカメやホタテ、カキの養殖は震災の打撃から早々に復活した。沿岸漁業で主力のサケは近年、不漁が続く。新おつち漁協は日本水産（東京）などと海面養殖の事業化を目指している。



震災後に建設された町文化交流センター「おしゃっち」。図書館や震災伝承展示室が設置され、震災の記憶と教訓を後世に伝える役割を担う＝3月23日

### ● まちのデータ

人口	2021年3月1日 1万719人	11年3月1日 1万5222人	増減率 -29.6%
復興交付金	1236億3847万円		
犠牲者	死亡 804人	行方不明 416人	関連死 52人
住宅被害	全壊 3579棟	半壊 588棟	一部破損 208棟

※復興交付金は復興庁まとめで、大槌町内で実施された岩手県事業への交付分を含む。人口、犠牲者は県、住宅被害は消防庁まとめ

### ● まちの動き

- 2011年**
  - 3月11日 地震発生。町役場にあった地震計が津波で流し、震度記録なし。隣の釜石は震度6弱。最大津波浸水高は22.2mで、市街地と住宅地の52%に相当する400mが浸水した。津波で町長と職員計39人が犠牲になり、そのうち町長を含む28人が役場庁舎で亡くなった
  - 4月25日 大槌小学校に役場仮庁舎を設置
  - 8月5日 仮設住宅全2146戸が完成
  - 11日 町内の避難所を全て閉鎖
  - 12月26日 町復興計画基本計画を策定
- 2012年**
  - 3月31日 おおつちさいかいエフエムが放送開始
  - 6月30日 大槌ありがとうロックフェスティバルを初開催
  - 8月6日 旧大槌小学校を改装した町役場庁舎で業務再開
  - 30日 大ケ口、吉里吉里両地区で災害公営住宅入居開始
- 2014年**
  - 5月30日 犠牲になった町民の人柄を聞き取り、未来に残す「生きた証（あかし）プロジェクト」が始動
  - 7月26日 吉里吉里海岸海水浴場で震災後初の海開き
- 2015年**
  - 4月7日 町が小中一貫教育を導入。吉里吉里学園と大槌学園で初の入学式
- 2016年**
  - 4月17日 観光拠点施設「浪板海岸ビレッジ」が開業
  - 5月22日 おおつち新山高原ヒルクライムを初開催
- 2017年**
  - 2月19日 身元不明者の遺骨を安置する納骨堂が城山地区に完成し、納骨式
- 2018年**
  - 6月10日 町文化交流センター「おしゃっち」オープン
- 2019年**
  - 3月2日 旧役場庁舎の解体工事が終了
  - 23日 三陸鉄道リアス線が全線開通
  - 11月15日 災害公営住宅全876戸完成
- 2021年**
  - 2月1日 観光船「はまゆり」が乗り上げた民宿「あかふ」の建物取り壊しが始まる
  - 3月11日 旧役場庁舎跡地で職員追悼式。安渡地区では「大きな地震が来たら戻らず高台へ」と刻まれた木製の碑を建て替え、住民にお披露目



### ● まちの宝



蓬菜島

大槌湾に浮かぶ蓬菜島。人形劇「ひよっこりひょうたん島」のモデルとされている。津波で島内の弁天神社が損壊したが、住民らが寄付を募り、2016年4月に再建した。



シカ肉

食肉加工場の運営会社MOMI J Iが販売するシカ肉。町の猟師が狩った後、1時間以内に処理して提供している。柔らかく臭みも少ない上、栄養も豊富だという。（MOMI J I提供）



### 2011年



三陸鉄道大槌駅などが再建された岩手県大槌町方地区。防波堤付近では犠牲者を追悼する公園の整備も予定されている＝2020年8月29日

大津波に襲われた後に火災が発生し、壊滅した町方地区。鉄筋造りの建物だけが原形をとどめた＝2011年3月25日

公共施設や商店街が集約されていたかつての町中心部＝2003年4月（一般社団法人東北地域づくり協会提供）